

山風

やまかぜ

平成23年3月18日

春彼岸号 第46号

発行：日蓮宗 本立寺

〒192-0902

東京都八王子市上野町11-1

電話 042-622-2262

FAX 042-622-2106

Eメール honryuji@oak.ocn.ne.jp

ホームページ http://www.honryuji.com

彼岸雑感

住職 及川玄一

「冬は必ず春となる、いまだ聞かず、見ず、冬の秋と返れることを」、この文章は日蓮聖人が、弟子である妙一尼に宛てた手紙の一節です。私が皆さまのご法事のときに一番よく読むご遺文がもしもありません。お彼岸が近づきようやく春を感じられる季節になりました。

春という言葉には気持ちをも明るくする力があります。字の中にお日様が入っているからでしょうか。明るいも日と月からできていますし、日蓮聖人に陽のイメージを持つのも名前に日が入っているからかもしれません。

法号(戒名)をお付けするときにその方がお亡くなりになった季節を入れることをしますが、冬にお亡くなりになった方に冬光院とお付けすることがあります。冬の日差しは暖かく、とてもありがたく感じられるからです。母親の愛情を表す言葉とし



第六中学校生の職場体験にて。本堂の回廊で灰均し(香ろの掃除)

て受け取ることもできます。これは冬だから良いのです、もし、夏にしてしまったら強い日差しを連想させ、優しさや愛情は感じられなくなります。秋に多くの木々は紅葉し、葉を落とします。だから冬の木々は丸裸で骨だけのような有様です。でも、そのお陰であまり強くない冬の日差しが地面に届きます。地中に在って春を待つ植物や動物に日の光が当たるのです。

自然の営み、サイクルはすごいと思いませんか。春になれば黙っていても花が咲き始めるように思いますが、四季それぞれの営みが補完し合っ一連となり、春の花はその流れの中で存在し花を咲かせ、同時に次の季節に繋ぐ役目を果たしているのです。

私たちの一生もまた斯くの如しかも知れませんが、若い春の時期はその後の夏、壮年期のために、夏は実りの秋、熟年期のために、そして秋は冬、老後のために、

お彼岸のご案内

三月十八日(金)〜二十四日(木)

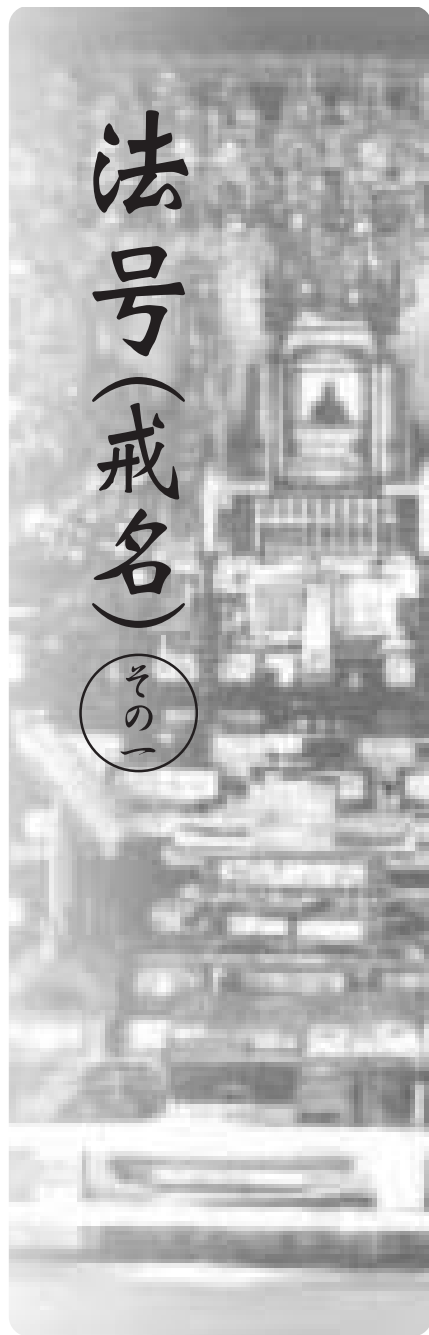
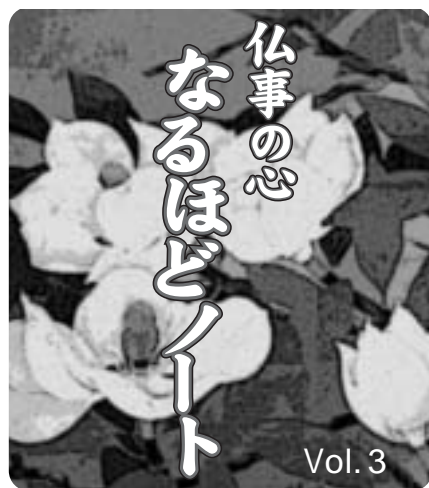
お彼岸はご先祖様と心通わす良い機会です。ご家族でお墓参りをし、ご先祖様に日頃の感謝の気持ちを込めて手を合わせましょう。

期間中は、境内でお花・お線香を販売しています。どうぞご利用ください。

お塔婆のお申し込みはお早めにお願ひします。

それぞれの季節はその季節なりの良さを見せるだけではなく、次の季節への準備を役割として果たしつつ年を重ねているのではないのでしょうか。皆さんは今人生のどの季節を生きていますか。

私たちの命も自分が誕生する以前の冬、秋、夏、春の自然の営みの中からいただいたものです。ですから、そのようなサイクルの中に命を得た者としての役割も課せられています。それは、次に春を生きる人に命を繋いでいくことです。私たちの命は自分で完結する命ではないはず。冬から春になり、夏から秋になる彼岸の時期に何となくそんなことを考えってみました。いかが思われますか。



今号からは、『法号(戒名)』を特集します。

法号を辞書で引くと、 仏門に入った者に授けられる名、 僧が死者におくる名、と書かれています。 広く知られているのは の方だと思えます。 現在では、 葬儀の時に故人に対し法号を授けることが多いので、 そのためか俗名(生前の名前) に対する死後の名前としての認知度が高いようです。 しかし、 辞書には とも書いてあります。 をもう少し易しく解釈しますと、「 仏さまの教えを信じる者に授ける名」となります。 ですから、 死後に限られた名前というわけではありません。 むしろ、 僧侶が出家するとき に法号を授かるように、 出家をしなくても生前に法号を授かり、 自分の人生に仏さまの教えを活かし、 自分の心を磨くよう努めるべきです。 なぜならば、 仏教というのは、 今生きている者を救うための教えだからです。



では、この法号はどのようにして決まるのでしょうか。 法号は、お寺の住職が仏さまに代わって授けます。 用いる文字はその方の人柄や、 仏さまの教えを学ぶ上で、 今後の目標となるような文字、 お経に書かれている文字などを選びます。 文字数や居士・大姉、 信士・信女などの敬称はその方の信仰心の厚さやお寺とどのくらいお付き合いがあるか、 また社会への貢献度などに因ります。 ここで注意が必要です。 世間では、 信士よりも居士、 信女よりも大姉、 文字数の多い法号が立派、 という様な誤解が広がっています。 文字数などによるランクは存在しません。 どの法号も仏さまから授かった名前であり、 平等に尊いものなのです。 これはしっかりと心に留めておいていただきたいことです。 そして、 最も誤解をまねいているのが 戒名料(法号料)と呼ばれているものです。 この問題は次回詳しくお話します。



仏舎利塔への仏舎利遷座式。民族舞踊で僧侶を先導する。

この度、私は2月12〜19日までの8日間スリランカへと研修に行かせていただきました。主たる目的は、スリランカ寺院の仏舎利塔建設への協力作業です。こう言うと格好良く聞こえますが、簡単に言うと土砂運びです。日中のスリランカはとても暑いので、作業中にかく汗の量は尋常ではなく、野球部時代の真夏の練習を思い出しました。また、仏舎利塔に仏舎利（お釈迦様のご遺骨）を納める儀式にも参加させていただきました。1枚目の写真がそうです。とても盛大に営まれ、民族舞踊の先導のもと私たちも仏舎利塔の中に仏像を納めてきました。この日はたくさんの仏教徒がお寺に集まり、仏舎利塔の建立

スリランカ研修



渡邊 晃司



合掌し仏舎利を拝む壇信徒。

を心から喜んでいました。

スリランカの仏教徒は仏舎利信仰なのですが、このお寺は地域では一番古いお寺であるのに仏舎利塔がなく、それが壇信徒にとって非常に悲しいことだったようです。そのため、今回このお寺に仏舎利塔が建立されたこと、また日本人がその建設作業を手伝ったことにとっても感謝していました。スリランカは2500年の歴史を持つ仏教国で、国民の7割が仏教徒です。残りはヒンドゥー教・イスラム教・キリスト教と他宗教です。今回関わったのは7割の内のほんの一部の仏教徒でしたが、彼らのお釈迦様に対する絶対的な信頼と仏教徒としての誇りに敬服しました。

彼らの生活、いや人生の基盤には仏教があり、お釈迦様の教えに沿って生きることによって幸せになれると彼らは信じています。そしてある信者さんは、それを日々の暮らしの中で実感していると言っていました。全員が全員このような敬虔な仏教徒ではないの

かもしれませんが、彼らのような仏教徒との出会いはとても印象深いものでした。

毎週日曜にはお寺で日曜学校が開かれ、そこに地域の子供達が集まり、お寺が教育の場として機能しています。日本でもできたらいいなと思うこと、また今の日本ではできないだろうなと思うこと、様々なことをスリランカの仏教と接することで感じました。本当に貴重な体験をさせていただき、そこで感じたことはここでは書き尽くせません。機会があればもっとみなさんにお伝えしたいと思っています。

スリランカには仏さまの教えが人々を幸せにしているという現実がありました。この事実が、何よりも心に残るものでした。（渡邊）



スリランカの仏教行事のお祭り風景。仏舎利を乗せた象が街を練り歩く。

ニュースと 行事案内

奉納御礼

幕(浄行堂)一帳
八王子市 安藤 謙治

団扇太鼓 一張
日野市 服部 美代子

山風協賛金
国分寺市 小林 好寛

大切に使用させていただきます。



枝垂れ桜 移動

お墓の入り口を飾っていた枝垂れ桜が大きくなったため、寺務所前に移動しました(写真)。

今回の移動や日頃の手入れは八王子市金子健二様のご厚意に与っています。御礼申し上げます。

「花見題目講」ご案内

4月8日は、お釈迦さま誕生の日、「花まつり」です。本立寺では「花見題目講」として、「花まつり」法要を行い、「お釈迦さまのご誕生をお祝いします。また、そ



平成22年、詩吟をご披露いただく。

の後、落語と花見の宴で楽しいひとときを持てますよう準備をしています。大勢の方の参加をお待ちしております。

詳細は同封の案内をご覧ください、事前にお申し込み下さい。

- 4月8日(金) 11時 釈尊降誕会
- 11時半 落語
- 12時半 お花見

読経教室

今年で9年目になります読経教室『春の部』が開催されます。初級では、お経を読むときの姿勢、数珠の持ち方、正しい合掌などの基礎を中心に、「妙法蓮華經」の意味や読み方を学びます。読経教室といいますが、皆さん楽しみながら参加されています。既に修了された方でも繰り返し参加下さい。(中級は初級修了者対象)

読経教室 初級(全5回)

- 1回 5月1日(水) 2回 5月18日(水)
- 3回 5月25日(水) 4回 6月1日(水)
- 5回 6月8日(水)

読経教室 中級(全5回)

- 1回 3月27日(日) 2回 4月3日(日)
- 3回 4月10日(日) 4回 4月17日(日)
- 5回 4月24日(日)

法華経写経会



お寺の静かな本堂の中、お香で心身を浄めて経文と向かい合います。一字一字心を込めて書き上げた写経に様々な願いを込めて、お寺に納経することを勧めしています。お気軽に寺務所までお問い合わせ下さい。

- 4月7日(木) 5月5日(木) 6月3日(金)
- 7月7日(木) 8月4日(木) 9月1日(木)
- 10月6日(木) 11月3日(木) 12月(日)木

暦

こよみ

4月(卯月)	
2日	読誦行 (午後2時)
3日	読経教室 中級第2回 (午後2時)
7日	写経会 (午後2時)
8日	釈尊降誕会 花見題目講 (午前11時)
10日	読経教室 中級第3回 (午後2時)
17日	読経教室 中級第4回 (午後2時)
22日	読誦行 (午後2時)
24日	読経教室 中級第5回 (午後2時)
28日	立教開宗会 (午前7時)
日蓮聖人が初めてお題目を唱えた日	
5月(皐月)	
2日	読誦行 (午後2時)
5日	写経会 (午後2時)
11日	読経教室 初級1回目 (午後2時)
12日	伊豆法難会 題目講 (午後7時)
日蓮聖人は鎌倉幕府によって伊豆に流罪	
18日	読経教室 初級2回目 (午後2時)
22日	読誦行 (午後2時)
25日	読経教室 初級3回目 (午後2時)
6月(水無月)	
1日	読経教室 初級4回目 (午後2時)
2日	読誦行 (午後2時)
3日	写経会 (午後2時)
8日	読経教室 初級5回目 (午後2時)
12日	題目講 (午後7時)
22日	読誦行 (午後2時)

お正月から今年で五年目となりました「七福神巡り」や、文化財防災デーに合わせた「防災訓練」、第六中学校生の「職場体験」や八王子市仏教協会による「ねはん会」など、お忙しい中ご参加、ご協力下さった皆様ありがとうございました。